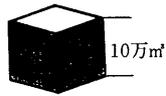
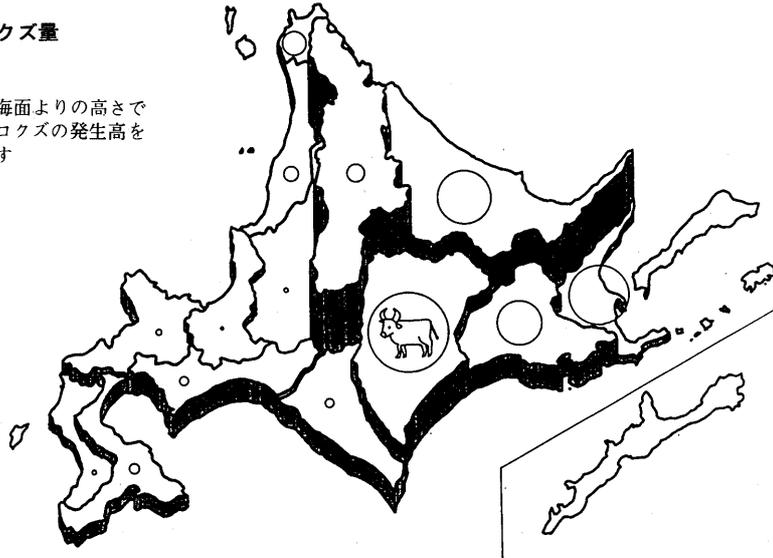
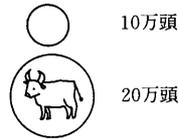




### 牛の飼育頭数とノコクズ量



海面よりの高さで  
ノコクズの発生高を  
表す



### ノコクズの流通形態と価格

“ノコクズ”はどのような形で取り引きされているのでしょうか。大半は製材工場等に、農家、キノコ栽培家が直接引き取りに行きますが、その際トラック1台(4トン車)につき1,000~1,500円程度の積み込み料金を支払います。その他、ある農協では製材工場数カ所と契約し、量を確保した上で、定期的に農家に配達するといった形を取っています。このような形のものは、流通総コストの低減、販路、入手先の継続的安定的確保の上からも今後増えてくると思われます。またノコクズ先進地域である九州・本州では“ノコクズ問屋”が数年前から営業しているそうです。

次に価格を見てみると、ほんの2~3年程前までは、みかけの1m<sup>3</sup>当たり工場渡しで100~200円だったのが、今では500~2,000円もします。キノコ栽培に広葉樹ノコクズしか使われなかった頃は、キノコ用ノコクズとして割高でしたが、栽培技術の発達で針葉樹のものも広く使われ、そういった事も少なくなりました。

### 今後のノコクズ

ノコクズは今不足しています。冒頭で述べたと

おり今のところノコクズは製材・チップ工場の副生物ですから、それら工場での原木消費量に比例して動かざる得ません。しかし、敷わらとしての畜産家、堆肥としての農家の需要に応えるためには、現在の50倍のノコクズが必要とされています。

ノコクズの家畜敷わらとしての需要は、これからの肉牛生産の増大政策とからんで、さらに大きなものが見込まれます。

農林水産省では国会に「酪農・肉用牛生産振興法案(仮称)」を提出する方針であり、同法案の内容としてEC並の牛肉・乳製品価格を目指し、生産の合理化・繁殖・肥育の一貫経営等の政策を掲げています。

この方針を受け本道においても粗飼料を中心とした飼料自給率の向上、飼料管理技術の改善、古材や間伐材利用による倉庫・畜舎などの設備投資の低減等の方策を通じ、昭和65年には、肉用牛飼育戸数及び頭数で2倍、生産数量で3倍を目指しており、製材・チップ工場等の“廃材ノコクズ”のみではこの需要にますます対応できない状況にあります。

(林産試験場 経営科)